164
480

小夜嵐葛城の夢脚本

上の巻

205157-000-6

特67-787

小夜嵐葛城の夢脚本　上の巻

土肥　喜代松
岡野　美春／著

M27

EDV-0171

煩悩の迷ひは二人夫
瞋怒のはひらは九人斬

小夜嵐葛城の夢脚本　上の巻

一名大和九人斬

土肥喜代松
岡野美春　合作

新田源次郎
女房　ちよ　やすの
長兵衛　うた吉
尾崎留吉

淺川よね
河内の源太郎
植田平十郎
枯木仙藏

本舞臺打拔梨畑の体中央に奥行二間横三間のゐら葺の小家あり總て大和國葛城村番小家の体幕の内より源次郎そのゝ梨畑に肥しをかけ居るおよねゝ爐の傍に寐轉び煙草を喫て居此之處よろしく在郷唄にて幕あく

よね「源さん火種が出來た煙草にしたらどふや

源「ドレ一服ゑよか　ト源次郎ゝおよねと煙草を吸にの〳〵る

その「源さん何じや又煙草かおさんのいあァ　ト悠氣の思ひ入れ是より双方喧嘩とある此所へ食客源太郎戻り仲裁そる

源太郎　コレマァ〳〵よいじやあいかわしに任せて下され

その「イエ〳〵捨ておいておくれまたしてゝ源さんがおよねさんを傍に引きつけいちや〳〵斗りあんぼわたしのお心よしでもだまつてゝいられぬアノ子も〳〵じや内の人が剛染じやといふて和泉からやつのいにきて人の男とち、くりあひゑらぬとおもてのしらんけれどとふからしつていまずぞそしておの腹のあんばいもどふやら源さんの種を孕でいるのもしれぬ食客の身分てちとたしおんだがよい

源「アヽモフ其様にゝはでそよからぬ

その「イエ〳〵いてねばあらぬいいあァ

源「そういはれて見るとおれもつらい爰の源次郎とはまへ〳〵ゐら心安くもありマァこう世話になるはおまへもしつての通り去年河内の騒動城戸熊太郎谷蘭五郎があゝいふ事をしおつた時おれも其場で手疵を受け長い間の遊び喰ひ何でも一働きせにやあらんとこゝまで世話になつているも他生の縁とやらじやによつて何事もマァ〳〵わしに任して下され　ト爰に仲裁するおその〻聞入ぞ

その「わたしやおまへの挨拶さのんではあいが地主の旦那へそまぬゆへ一寸旦那に聞て貰ふはいあァ　ト源太郎の留るも聞ぞ下手へ這入る

源太郎「イヤ中々短氣な内儀じやあァ　ト皆々困るまあし爰へ地主植田平十郎出て來り

平「源次郎どふしたものじや此間から見慣ぬ女が來て居るゆへハテあアト氣は付いたが今噂ゐら聞けば和泉の國からたよて來たとやらどういふ間かゑらねども今の身分でようあい事とは思ふていたがよく〳〵聞ばきさまの手のけやそうあコレ源次郎小家番風情で妾ぐるひとは過るじやあいかアノ女は置事はありませぬ夫共置ねばあらぬ事あれば此小家まは置舛ぬサア今からト詰ト、出ていて貰ふ　ト迫るおよねは聞づらく

よね「ヨたしがいてじよじもめが出來るあらわたしさへ出て行ばよいがあア
ト色々捨てせりふありて風呂敷包取揃へ惡口云ふて出る源次郎は色々詫す
る平十郎は這入る此内源次郎長女じう十三のおしらへ子守姿にて出來る
じう「とゝさんかゝさんおりや子守に行はいやじや内へ戻して下され　ト云
ふ又両親は辛抱せいと云含めるも聞ぬ故無理に源次郎を送らしてやる源次
郎はおじうを連れおよねの跡を尋る思入ゴて出て行く跡には源太郎おその
に手傳ひ梨子畑へ肥しをのける此摸樣よろしく在郷唄にて道具回る

小夜嵐葛城の夢脚本上の卷終

明治廿七年五月七日印刷
仝　廿七年五月十二日發行　（定價六錢）

兵庫縣神戸市三宮町
著作者　土肥喜代松
兼發行者

大阪府西成郡曾根崎村番外拾八番屋敷
著作者　岡野美春
兼發行者

大阪市北區堂島裏壹丁目百拾八番屋敷
印刷者　三盛堂　鈴木千代三

版權
興行權
所有